

## 総合土木C（建設土木）

〔例題1〕 令和2年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に関する次の問いに答えなさい。

### 【問1】

次の文章は「第1章 基本的な考え方」の抜粋である。空欄ア～クに該当する語を答えなさい。

<基本的な考え方>

- ・近年、の影響により気象災害が化・化し、南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震、首都直下地震などの大規模地震の発生も切迫している。
- ・また、以降に集中的に整備されたインフラが今後一斉に老朽化することから、インフラの維持管理・更新を確実に実施する必要があるが、未だ型のメンテナンスサイクルは確立できておらず、適切に対応しなければ、中長期的なトータルコストの増大を招くのみならず、我が国の行政・社会経済システムが機能不全に陥る懸念がある。
- ・このような国家の危機に打ち勝ち、国民の・を守り、国家・社会の重要な機能を維持するためには、防災・減災、国土強靱化の取組の加速化・深化を図り、災害に屈しない強靱な国土づくりを進める必要がある。
- ・また、防災・減災、国土強靱化の取組をより効率的に進めるためには、近年急速に開発が進む技術の活用等が不可欠であるが、上記の課題についての備えは未だ十分ではない。
- ・このため、「化する風水害や切迫する大規模地震等への対策」「型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策の加速」「国土強靱化に関する施策を効率的に進めるための化等の推進」の各分野について、取組の更なる加速化・深化を図ることとし、令和3年度から7年度までの5か年に追加的に必要となる事業規模等を定め、重点的かつ集中的に対策を講ずることとする。

### 【問2】

具体的な対策の一つとして「流域治水対策」を掲げているが、このことについて次の（1）～（3）に答えなさい。

- （1）流域治水の基本的な考え方について説明しなさい。
- （2）流域治水対策のうち「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策」として考えられる対策例を5つ答えなさい。
- （3）流域治水対策の中長期の目標値の一つとして「1級河川における戦後最大洪水等に対応した河川の整備率100%」を掲げているが、現状（令和元年度）の整

備率と5年後の目標（令和7年度）の組合せとして妥当なのはどれか。番号で答えなさい。

	現状の整備率	5年後の目標
1.	約35%	約50%
2.	約50%	約63%
3.	約65%	約73%
4.	約75%	約80%
5.	約75%	約90%

## 総合土木C（建設土木）

〔例題2〕 河川管理施設に関する次の問いに答えなさい。

### 【問1】

河川管理施設の計画・設計に関する次の記述の空欄ア～ウに該当する語を答えなさい。

- ・護岸は、高水敷やほかの構造物とともに流水による侵食作用から堤防（掘込河道にあっては堤内地）、を保護するために設けるものである。
- ・床止めは、の安定を図るためにやむを得ない場合に設置するものである。
- ・堤防ののり勾配は、河川管理施設等構造令からより緩い勾配とし、必要に応じ小段を設けることとなるが、降雨の浸透面からみると緩やかな勾配の一枚のりとした方が有利である。

### 【問2】

堤防の浸透に対する強化に当たっては、のりすべりに対して強化する方法、パイピングに対して強化する方法があるが、それぞれについて1つずつ工法を挙げなさい。